

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学 国語教育専修
田中 愛花

1. 単元名 地域の人に癒しをどうぞ！ 一奈良で生まれた茶の湯(茶道)を通して一

2. 単元の目標

- 室町文化である茶の湯のことを知り、体験を通して、茶の湯(茶道)には人をもてなして癒す役目があることを理解できる。(知識・技能)
- 社会的に見て疲労感を感じる人が多く、年々増えている問題を解決するために自分が何をできるか考えることができる。
- 名人達が茶の湯(茶道)に込めた想いについて考え、特に「和敬清寂」の思いについて、自分なりの意見をもち地域の方をはじめとする他者に思いを伝えることができる。(思考・判断・表現)
- 茶の湯(茶道)についてグループのメンバーと協力して調べたり、積極的に体験に参加しながら茶の湯についての理解を深めたりして、地域の方々に相手のことを考えたおもてなしを進んで行うことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、奈良で生まれた日本の伝統文化である「茶の湯(茶道)」について取り扱う。茶の湯(茶道)は茶を立て飲むことで精神を修養し礼法を極める道である。鎌倉時代の禅寺での喫茶の儀礼を起源として、室町時代の村田珠光に始まり、武野紹鷗を経て千利休が大成した。利休後は表千家・裏千家・武者小路千家の三家に分かれ、今は他に多くの分家がある。村田珠光がいた「称名寺」は奈良市にあり、児童たちの身近な場所で茶の湯(茶道)が始まっている。

茶の湯(茶道)は、亭主のおもてなしによって静かに心を落ち着け、五感を使う癒しの体験ができると言われている。その理由として千利休が説いた「和敬清寂(わけいせいじゃく)」という考え方がある。和敬清寂の「和」は心を開いて仲良くすること、「敬」は人と敬いあうこと、「清」は目に見える清らかさと心に見える清らかさを大切にすること、「寂」はどんな時にも動じない静かな心を持つことを表している。精神世界に深く関わる茶の湯(茶道)は昔から、疲れ荒ぶった心を落ち着けてきた。年々疲れた人が増えている今、茶の湯(茶道)で人と人の心を繋ぐことによって癒すことは大きな意義があると考ええる。

(2) 児童観

本学級の児童(男児10名、女児8名、計18名)は小学3年生から続けてきた郷土学習を続けており、奈良県や奈良市に愛着を持ち、好きだと言う児童が多い。社会科の室町文化の単元で茶の湯のことを、安土桃山文化の単元で茶道や千利休について学習している。教科書に記載されていることが、自分達の身近な場所から始まったことに対して興味を示す児童は多いと考えられる。また、本校は地域連携事業が活発に行われており、地域の人との関わりが深い。茶会をすることで、更なる地域連携を期待できる。

茶道の精神性については難しく感じ、興味が薄い児童がいるかもしれない。しかし、疲れたと感じている人が多いと言う問題意識をもたせ、茶道の精神性とその疲れた人々を救う一つの方法だと言うことに気づかせることで茶会を開くことの意味づけを確実にもたせたいと考える。

(3) 指導観

本単元は、児童の身近な場所で生まれた茶の湯と、茶の湯を大成させた千利休の精神性を学び、おもてなしの心を理解した子どもたちが、日々お世話になっている地域の方々を癒す場づくりをする流れであ

る。はじめに、社会的に見て疲労感を感じる人が多く、年々増えていることに注目させ、疲れた人を癒すために何ができるか考えさせる。今は児童でも「疲れた」と口にする子が多いので、理解しやすいと考える。次に、昔の人々は茶の湯(茶道)で亭主がお茶を立て、おもてなしをすることで茶を飲んだ人は日々の疲れを癒し、乱れた精神を整えていたことを学ばせる。その際は茶の祖である村田珠光が児童たちの身近な場所にいたこと、社会科で登場した千利休の紹介をする。その次に、村田珠光がいた称名寺で茶の湯(茶道)体験を行い、おもてなしを実際に受けることで「和敬清寂」の精神をさらに学ばせる。茶道の精神性を理解した上で、地域の方に向けた茶会を行い地域全体の幸福感をあげられるようにしたい。

(4)ESDとの関連

○本学習で働かせるE S Dの視点 (見方・考え方)

・相互性

千利休が説いた「和敬清寂」の「和」は心を開いて仲良くすることであり、茶の湯(茶道)を通して人と人が互いに働き掛け合う中でつながっていると感じる。

○本学習で育てたいE S Dの資質・能力

・コミュニケーション力、つながりを尊重する態度

他者とコミュニケーションを取ることは言葉だけでなく、身振りや手振り、表情や雰囲気といった非言語の伝達方法がある。茶の湯(茶道)は、言葉を使わずに人をもてなし癒す作用があることを知ること。

・他者と協力する態度、進んで参加する態度

地域の人におもてなしをするための茶会を開催するときに、クラスメイトと協力して成功させるために進んで動こうとしていること。

○本学習で変容を促すE S Dの価値観

・幸福感に敏感になる 幸福感を大切にすること

昔の人々は茶の湯(茶道)で亭主がお茶を立て、おもてなしをすることで茶を飲んだ人は日々の疲れを癒し、乱れた精神を整えていたこと。現代でも茶の湯(茶道)は静かに心を落ち着け、五感を使う癒しの体験ができるため幸福感を感じやすいこと。

○達成が期待されるS D G s

・11 住み続けられるまちづくりを

2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化すること。

・17 パートナリシップで目標を達成しよう

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①室町文化である茶の湯のことを知り、体験を通して、茶の湯(茶道)には人をもてなして癒す役目があることを理解している。	①社会的に見て疲労感を感じる人が多く、年々増えている問題を解決するために自分が何をできるか考えている。 ②名人達が茶の湯(茶道)に込めた想いについて考えることができる。 ③茶道に込められた「和敬清寂」の思いについて、自分な	①茶の湯(茶道)についてグループのメンバーと協力して調べている。 ②、積極的に体験に参加しながら茶の湯についての理解を深めようとしている。 ③茶の湯(茶道)の精神性を理解し、相手のことを考えたおもてなしを進んで行っている。

	りの意見をもち他者にその意見を伝えている。 ④単元の学習を通じて学んだことを、地域の方々に向けて表現している。	
--	---	--

5. 単元の指導計画(全 10 時間)

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
1	①集中して勉強した時や、たくさんスポーツをした後は「疲れた」と感じやすいことを思い出す。 ②社会的に見て疲労感を感じる人が多く、年々増えていることを知り、考えたことを発表し合う。 a)一般社団法人日本リカバリー協会が出している「日本の疲労状況」の記事を読む。 b)記事を読んで、分かったことや感じたことをワークシートに記入する。 ・2・30代の日本人は8割の人が「疲れた」と感じているんだね。 ・逆にお年寄り世代の人は、若い人に比べて元気だね。 c)グループで自分の意見を発表する。 ③身近な人を思い浮かべて、疲れた人を癒すために自分は何ができるか考えさせる。 a)考えたことをワークシートに記入する。 ・お父さんが「疲れた」と言った時には肩たたきをしているよ。 ・お兄ちゃんは美味しいものを食べると元気になると言っていたな。自分も料理のお手伝いをしようかな。 b)クラス内で発表する。	・児童がよく疲れたと言っていることを思い出させて疲労感を感じる人が多いことを実感できるようにする。 ・日本の疲労状況の表やグラフからタイトルや単位、数値の差や変化に注目するよう促す。 ・二つ以上の情報を比較して分かったことや感じたことをワークシートに書くよう指示する。 ・親族や友達に喜んでももらえそうなことを考える時間を設ける。 ・他の人の発表から出た意見をワークシートに書くよう指示する。	△ア② ワークシート・発表 △イ① ワークシート
2 ～ 4	①昔の人々は茶の湯(茶道)で亭主がお茶を立て、おもてなしをすることで茶を飲んだ人は日々の疲れを癒し、乱れた精神を整えていたことを知る。 a)社会科で学んだ茶の湯や千利休、茶道について復習する。 b)茶の湯や千利休、茶道について ICT 機器を用いて調べ学習を行い、ワークシートに学んだことを記入する。 ・茶の湯は村田珠光という人が始めたそうだよ。 ・千利休は豊臣秀吉をはじめとする武将にお茶を振る舞っていたんだね。	・茶の湯(茶道)について持っているイメージを話し合わせる。 - また、学習の変化を記録するために初発の感想を書くよう指示する。 ・ICT 機器を用いて調べたことをスクリーンに映して発表するよう指示する。 ・他の人の発表から出た情報をワークシートに書くように指示する。	△ア① △ウ① ワークシート 観察

	②茶の湯(茶道)の祖である村田珠光は奈良出身であり、自分達に身近な人物であると知る。 a) 村田珠光がいた称名寺は奈良市にあることを学ぶ。 ③称名寺に行き、茶の湯(茶道)体験をする。 ・茶の湯は難しいと思っていたけれど、意外と楽しいね。 ・お茶を飲むと心が落ち着くな。 ・苦くて美味しくないと思っていたけれど、意外と美味しかった。 c) 茶の湯(茶道体験)の先生から「和敬清寂」について学び、メモをとる。 ・和敬清寂って難しいけど、茶道体験を通してなんとなく理解できたよ。	・奈良市の地図を用いて、称名寺が学校の近くにあることを見取らせる。 ・茶の湯(茶道)体験では、楽しく騒ぐのではなく静かに心を落ち着けて臨むように指導する。 ・茶の苦手な児童には白湯を出す等の配慮をする。 ・茶の湯(茶道)体験の先生による千利休の説いた「和敬清寂」の説明を児童たちが理解しやすいようスケッチブック等を用いて支援する。	△ウ② 観察・メモ
5 ～ 7	①茶道体験の振り返りをする a) 茶道体験をしてみた感想をグループで発表する。 b) 「和敬静寂」について「和」「敬」「静」「寂」それぞれ知ったこと、考えたことについてメモを見返しながら班でまとめる。 ・「和」は茶の湯(茶道)で人と心を通わせることの大切さを表しているんだね。 c) 「和敬静寂」とSDGsの考え方につながるものがあるか考える。 ②地域の人に向けた茶会の準備をする。 a) 地域の人が癒されたと感じるおもてなしについて考える。 ・一人ひとりがゆっくり座ってお茶を飲めるようにしたいね。 ・茶会に私たちが込めた思いも知ってもらいたいな。 ・一人ひとりに思いを込めてお茶を振る舞いたいな。定員は何人ぐらいがいいかな。 b) 茶会の開催の準備をする。 ・ゆっくり飲めるように椅子を用意する必要があるね。 ・上手にお茶を立てる練習をしよう。 c) 茶の湯(茶道)について学んだことをグループでまとめ、茶会で発表できるように練習する。	・「和敬静寂」に関して知ったこと、考えたことを、ロイロノートでまとめ班員と共有するよう指示する。 ・以前学習したSDGsについてノートを見返すなど振り返りをする時間を設ける。 ・自分がもし茶会のお客さんだったら、どんな会が良いと思うか考えさせ相手の立場になって物事を考えることの大切さを理解できるような発言をする。 ・児童中心で茶会の準備を進めさせる。トラブルが起きた時に対応できるよう見守る。 ・パワーポイント又は模造紙にまとめるよう指示する。	△イ②③ ロイロノート 発表 △ウ③ 観察 △イ④ 成果物

8 ～ 9	①地域の人に向けた茶会を開催する。 a) 地域の人に向けて茶の湯(茶道)について学んだことをグループで発表する。 b) お茶を振る舞う。	・ 児童中心で茶会を進めさせる。トラブルが起きた時に対応できるよう見守る。	△イ④ ウ③ <u>観察</u>
10	①茶会の振り返りをする。 a) 地域の人感想を読み、自分達の発表や茶会の振り返りを行う。 b) 学習全体の振り返りをワークシートに記入する。	・ 茶会をやってみて地域の人におもてなしができたか、癒すことができたか、お茶の精神性を理解しながら開催できたか振り返るよう指示する。 ・ 学習全体の振り返りのかかせ、初発の感想との違いを児童が実感できるような発言をする。	△イ③④ <u>ワークシート</u>